修武館

SYUBUKAN

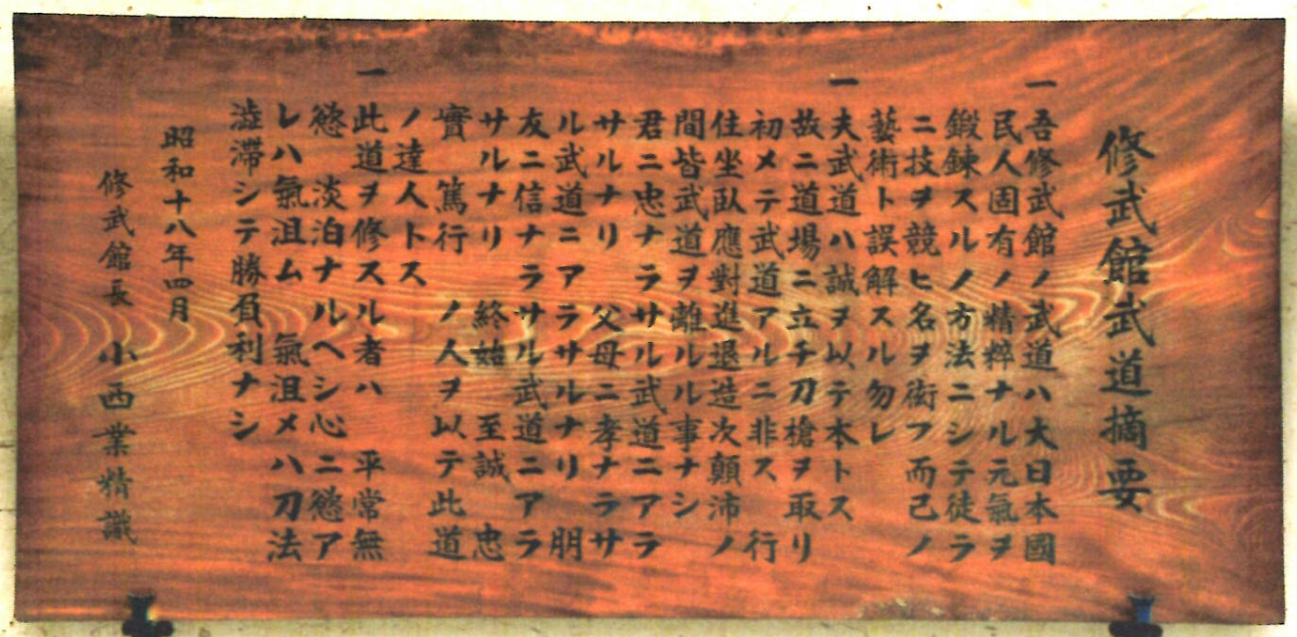
［公益財団法人 修武館］

ごあいさつ

修武館は天明6年（1786年）に開設されました歴史ある道場であり、開設以来「修武館武道摘要」を指導理念と致しまして、日本古来の伝統文化である剣道・なぎなた・居合道の基本を守り、青少年の心身を鍛えるべく日頃の稽古を通じ指導育成に努めてまいりました。

特に「礼に始まり礼に終わる」といわれております武道の礼法を重んじ、文武両道を目指す方々の修錬の場であると共に、武道の発展と地域社会の平和に貢献して参ります。

理事長　小西　新右衛門



『修武館武道摘要』

一、我が修武館の武道は、日本人固有の純粋で美しい心身を鍛錬するためのものであり、無意味に技を競い名前を上げることで自己の技量と誤解してはならない。

一、その武道は偽り飾らないのが本分である。故に道場に立ち刀槍を手にして初めて武道になる訳ではなく、日常の行動全てから武道の心が離れてはならない。目上の人に対する尊敬の心を持たず、親に孝行を尽くさず、朋友に信じてもらえない人間に武道はあり得ない。常に誠実であり心豊かである人を武道の達人とする。

一、武道を志す者は常日頃から無欲を通し物事にこだわってはならない。欲があれば気持ちが阻まれ、気持ちが阻まれば刀槍の運びが鈍るため勝負にとって利はない。

昭和十八年四月
修武館長　小西業精の見識

剣道は、幼稚園年中5歳児から受け付けています。武道は、まず礼法を学びます。

道場に入れば、神殿（武道の神様）に向かって「こんにちは」先生方にも「こんにちは」帰るときも同様に「さようなら」を言うこと。

また、しつけとして、トイレでスリッパをそろえることや、家に帰っては靴をそろえることなど、毎回繰り返し確認するように指導しています。

幼稚園児や小学生に礼儀作法を教えながら、指導員は子供達を指導するとともに、自分達の体力・精神力強化に役立てております。

剣道 KENDO

修武館では、何事にも『感謝の気持ち』をもって取り組めることを指導の目標としていますが、これは少年部に限ったことではありません。

今、自身が剣道をできることが当たり前だと思わず、稽古ができる環境（道場）があり、指導していただく先生がいて、同じ志をもつ仲間がいて、そして何より支えてくれる家族がいることに感謝をする。

私たちはこの『感謝の気持ち』をもって取り組むことで、相手を敬う心、思いやる心を育みながら日々の稽古に励んでおります。（事務局）

修武館
安倍

安倍　尚志（範士八段）

昭和59年　兵庫県警剣道師範
平成 9 年　剣道主席師範
平成14年　4月より修武館師範
現　　在　一般財団法人兵庫県剣道連盟 審議員

なぎなた NAGINATA

修武館では、曜日により２つの形を稽古することができます。

ひとつは、『全日本なぎなた連盟の形』です。これは、古くから伝わる数多くのなぎなたの流派を、ひとつの技として統一されたもので、「なぎなた」と言われる形がこれにあたります。

そして、もうひとつの形である古流の「天道流」は、宗家の故　美田村武子先生に修武館の師範としてご指導いただいておりました。また、多くの素晴らしい先生方が指導してくださっていました。

このような伝統の積み重ねにより、全日本選手権大会をはじめ、数多くの大会で上位入賞を果たしております。

白い稽古着に袴をはいて、大きな声を出して元気良くなぎなたを振る。そんな武道であるなぎなたは、小学生、中学生、高等学校生、大学生、それに社会人や家庭婦人といった幅広い層の方々が指導を受けにいらしております。

姿勢が良くなりますし、大きな声を出すので体も元気になります。礼儀が身に付きます。そして、人を思いやる気持ちが養われます。

なぎなたって素晴らしい日本の伝統文化、武道です。

木村　恭子（なぎなた教士）

国際なぎなた連盟常任理事国際武道大学客員教授
聖心女子大学非常勤講師

居合道 IAIDO

居合道は、敵の攻撃に対し鞘に納めた日本刀を瞬時に抜いて身を守る刀法を形として稽古する武道です。

かつては武士の修練として、現代においては人間形成の道として、居合道は伝承されています。

修武館では全日本剣道連盟居合と伯耆流居合を指導しています。

伯耆流は片山久安を流祖とする居合の流派です。

久安は慶長15年（1610年）、時の帝・後陽成天皇の御前で奥義「磯波」を天覧に供し、従五位下・伯耆守に任ぜられたとされています。

後年、久安は周防国の岩国に移り、領主・吉川広正の客分扱いとなり、同地で没しました。流儀を継いだ次男・久隆は吉川家に仕え、片山家は岩国藩の剣術師家の一つとなりました。

片山久安の弟子である浅見一無斎は流儀を熊本藩に伝えました。

伯耆流師役・星野角右衛門は岩国の片山家に赴き、片山利介の教えを受け流儀の一切の筋を正しました。角右衛門の後を継いだ星野龍介は片山友猪に入門しています。

熊本出身の吉澤一喜先生は星野九門・星野龍太両先生に師事し、戦前・戦後に京都で伯耆流を広めました。

吉澤先生の直門でありました庭田義穂先生は昭和39年より修武館にて伯耆流の指導を始め、現在に至っています。

近藤　健一（教士七段）

昭和45年	修武館入門。吉澤一喜先生門下・庭田義穂先生に師事
平成10年	教士号取得
平成20年～現在	修武館居合道部　指導責任者 兵庫県居合道大会審判員、兵庫県級段位審査会審査員

就学前武道教育の実践

この事業は、「もったいないをカタチに」することを基本理念とする
日本財団の助成を受けて実現するものです。
日本財団 The Nippon Foundation 助成事業 ボーダレス贈り物

平成23年4月1日
公益財団法人として新たな一歩を踏み出しました。武道が日常生活のなかで、もっともっと生かされますように、当館の持っているチカラを惜しみなく社会に発信しようと立ち上がった「修武館プロジェクト」。

その名も「就学前武道教育の実践」です。

平成24年4月1日から完全実施された「中学校武道必修化」を踏まえ、修武館ができることをカタチにします。

目　的

平成24年度から中学校の武道必修化が完全施行されましたが、限られた授業のなかで、武道必修化の目的は達成されるのでしょうか。

地域のチカラとしての町道場がその役割を達成する為の役割が何であるかを検証し、事業の過程や成果を情報発信することで必修化の成功に寄与します。

目　標

修武館では、人格形成の基礎となり、心身ともに目覚しく発達する幼児期に「武道のこころ」を伝えます。

また、保護者もいっしょに学べるように親子参加型のプログラム構成を心がけ、日常生活に生かされる武道を目標とし、武道必修化の目的を実現する為の地域のチカラとなることを目指します。

事業内容

幼稚園、保育園及び小学生（低学年）を対象に、伝統文化としての剣道を体験してもらいます。礼法の習得からはじまり、木刀を使った稽古が出来るようになることを目標としています。

また、保護者が気軽に見学できる環境を提供し、親と子が一緒に「武道」を学べる機会をつくります。

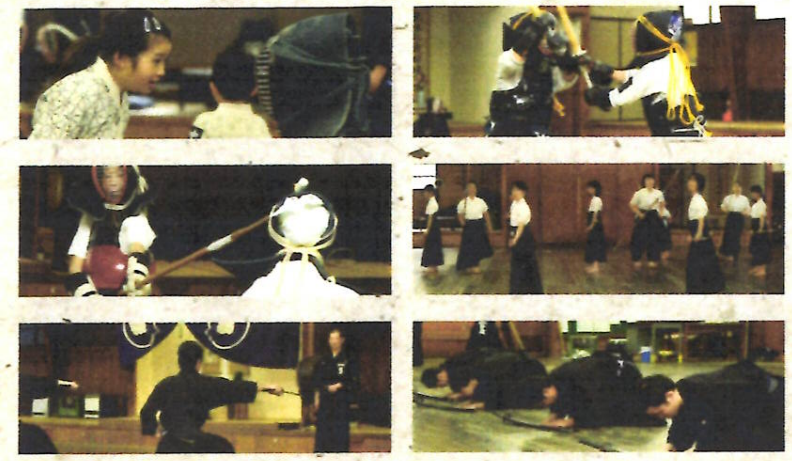
《木刀による剣道基本技稽古法》
竹刀ではなく木刀を使うことで、より深く剣道の道理を学べることが期待されます。

修武館の歴史

1786年　第7考小西新右衛門朝巴が私塾道場を公開、のちに揚武会（ようぶかい）と名のる。

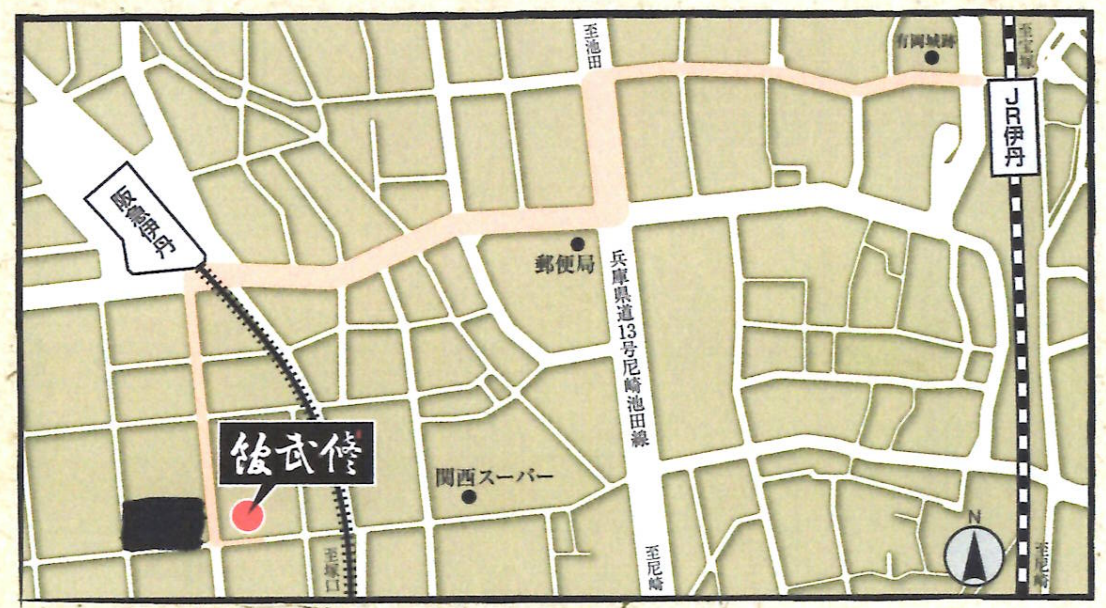
1972年　10月 第12考小西新右衛門業精二代目館長が館の恒久的な存続を図るため財団法人修武館とする。
翌年に『修武館武道摘要』を館頭に掲げ門弟に教示。

2011年　4月 兵庫県知事より公益認定を受け、公益財団法人修武館へ移行。



修武館

http://www.syubukan.info/



阪急伊丹線伊丹駅より南へ徒歩 5 分
JR福知山線伊丹駅より西へ徒歩15分

【公益財団法人 修武館】〒664-0858 兵庫県伊丹市西台3-2-11〔Tel/Fax〕072-773-1431